

おだわら城町アートプロジェクトについて

現代アートの担い手である芸術家たちは、私たちとはまったく異なる視点で社会を捉え、思っても見ない発想で作品を生み出し、見る人の心を揺さぶり、時に社会へ疑問を投げかけます。そんな芸術家たちとの触れ合いは、人の感性を刺激し、固定化している価値観を揺るがし、豊かで柔軟な思考を生み出す“変化”をもたらします。おだわら城町アートプロジェクトは、歴史的な建造物や商店街などのまちの中で、アートを展開することで、いつもの街の風景に変化を生み、新しい発見と出会いの場をつくります。

令和2年度コンセプト「ハレとケ交差点」

ハレとケ 時を超え、非日常と日常をたゆたう。

「ハレ」と「ケ」という概念は、民俗学者の柳田國男氏が定義した日本人の伝統的な世界観です。結婚式や成人式、祝祭など非日常の特別な場を「ハレ」、対して普段の日常生活を「ケ」と区分していました。

今回舞台となる、オービックビルは、「地域における文化の発信地」になることを願った地権者たちが共同出資し、複数オーナー管理のビルとして昭和56年に生まれました。以降、本屋やレコードショップ、居酒屋、美容院、雑貨屋、服屋、カルチャー教室、広告代理店、起業したばかりのIT企業など、様々なテナントが利用してきました。夜市「ナイトバザール」やコンサート、寄席、納涼大会といったイベントも開催され、多くの人で賑わったこのビルは、人々にとって毎日の生活に少し特別な楽しさを与えてくれる「ハレ」と「ケ」の混ざり合う場でした。しかし、近年は建物が老朽化、空きテナントが目立つようになり、4月からは再開発計画が開始されます。

今年度の「おだわら城町アートプロジェクト」では、オービックビルの最後の時にアートを交差させることで、かつての「ハレ」と「ケ」の場の痕跡を可視化できればと考えました。市内外の5名のアーティストにオービックビルの各所に映像、音楽、平面、立体、インスタレーションの作品を展示していただきました。そのほとんどが昨年からの今年のコロナ禍において制作された作品です。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大により生活が制限され、身の回りの日常「ケ」について考える機会が増えたのではないかと思います。今となっては当たり前で過ぎていたはずの日常が非日常（ハレ）の場となってしまいました。ハレとケの確固とした線引きができない、不確定なゆらめきの中にいる今だからこそ、無意識に通り過ぎていつもの街、いつもの日常を見つめてみてください。そして、新たな発見や気づきを得て、明日からの生活の希望へと繋がることを願います。

最後に、度重なる内容や日程変更に対応していただきましたアーティストの皆様、出店者の皆様、ご協力くださった関係者の方々、そしてコロナ禍にも関わらずにご来場いただきました皆様、そして40年間小田原の街を支えてきたオービックビルに感謝申し上げます。

おだわら文化事業実行委員会 高橋歩美

ロゴコンセプト



ハレとケ
交差点

十字のシンボルは、これまでに様々な要素が変わったオービックビルの様子を表しています。このイベントで新たな交差が起きることで、まちなかに小さな変化、発見、希望が生まれるようお願いをこめたものです。

アーティスト / 作品紹介

蓮沼 執太 (音楽家・アーティスト)

1F

小田原でフィールド・レコーディングをしてきました。土地の音を録音することは、音を通して歴史や文化を知っていく行為です。列車の発車ベル、風鈴、波の音、そしてスズアコーヒーの豆の音。様々な営みが音となって感じ取れました。今回のイベント・コンセプトである「ハレとケ」は柳田國男による時間概念でもありますが、鈴木雄介さんのターンテーブル演奏と僕の音楽が皆さんにとっての「ハレ」（非日常）として存在して、そして小田原の音が「ケ」（日常）となって、その2つが混じり合ったり、それぞれが独立して存在したり、「ハレとケ」の中で変化していきます。

音楽家、アーティスト。1983年東京都生まれ。蓮沼執太フィルを組織して国内外でのコンサート公演をはじめ、映画、演劇、ダンス、CM 楽曲、音楽プロデュースなど、多数の音楽制作。また「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、展覧会やプロジェクトを行う。主な個展に『Compositions』(ニューヨーク・Pioneer Works 2018)、『〜 ing』(東京・資生堂ギャラリー2018)など。最新アルバムに、蓮沼執太フルフィル『FULLPHONY』(2020)。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。http://www.shutahasunuma.com

鈴木 雄介 (スズアコーヒー焙煎士・DJ)

1F

地元小田原でコーヒー卸業をしています。2010年にコーヒーをテーマにしたユニット「the coffee group」(小説家、音楽家、画家、歌手、DJ)のユニット)に参加、コーヒー提供とDJを担当しました。音楽プロデュースは蓮沼君、CDアルバムをリリースしました。今回のイベントも「the coffee group」の活動をきっかけにお誘いいただき、イベントタイトルの「ハレ」（非日常）と「ケ」（日常）の2種類のオリジナルブレンドを作成しました。同じ空間で一緒に時間を過ごす事が非日常化したようなコロナ禍だからこそ、改めて、観る、聴く、嗅ぐ、触れる、味わう、五感で愉しんでいただけたら幸いです。※文学と箱根小田原をテーマにした商品「箱根小田原物語 珈琲編」も販売中です。

2011年「J. C. Q. A. 認定コーヒーインストラクター1級」取得。2013年「J. C. Q. A. 認定生豆鑑定マスター」取得。(※J. C. Q. A. とは、農林水産省認可法人「全日本コーヒー商工組合連合会」が行う、日本初のコーヒーに関する資格認定制度。)DJとして、口ロロ(クチロロ)、the coffee group(小説家、音楽家、画家、シンガーソングライター、DJ)のユニット)、submarine等の作品やLiveに参加。コーヒーと音楽の楽しみ方を日々探求している。http://suzuacoffee.com/

菅沼 朋香 (生活芸術家)

2F

ニューロマンとは、現代の生活についての疑問を自身のライフスタイルを用いて提案する表現手法である。「ニューロマン 都会編」は、1986年の誕生から「まぼろし屋台」の制作を経て2017年までのストーリーを盛り込んだ短編ドラマ。「ニューロマン ニュータウン編」は、高度経済成長期が産んだ新興住宅地〈ニュータウン〉に対する問題提起と提案を行う作品。〈多様性の開花〉をテーマとする「ニュー喫茶幻」と〈庭のある生活の豊かさ〉を伝える「空家スイーツ」の2つのアートプロジェクトを進行中。「ニュー・ウェディング」は、新しい結婚式の形を提案するアートプロジェクト。2018年2月に親族一同を熱海に招待して旅行会を企画した。

生活芸術家。東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。昭和の高度成長期と自身関係をテーマに人生の再現ドラマ「ニューロマン」シリーズを制作。2017年に自身のルーツであるニュータウンを題材にした作品を作るため、埼玉県の高齢ニュータウンに移住。アートプロジェクト「ニュー喫茶幻」「空家スイーツ」を進行中。主なグループ展にあいちトリエンナーレ2013、六甲ミーツアート2016など。http://suganumatomoka.com/ https://www.akiyasweets.com/



横井山 泰 (美術作家)

2F

初冠(ういこうぶり) 大きなプードルの顔の彫刻です。制作したのは今年の3月から5月にかけて、一斉休校の時期です。初冠とは、冠を被り大人の仲間入りをする儀式。伊勢物語の初段のタイトルです。コロナも冠です。コロナ禍での最初の作品に安国への祈り、卒業する教え子への思いも込めてこの様なタイトルをつけました。また、この時期、伊勢物語の全125段を描くシリーズも手掛けていました。オービックビルの思い出の中に加えていただいております。

1976年静岡県伊豆の国市生まれ。2003年多摩美術大学大学院美術研究科油画専攻修了。2003年「TAMA・デ・アート」奨励賞。2004年「第7回岡本太郎記念現代芸術大賞展」特別賞。2005年「シェル美術賞2005」本江邦夫審査員奨励賞。2010年文化庁新進芸術家海外研修員としてパリに滞在(〜2011年)。2012年小田原にアトリエを構える。2019年、おだわら城町アートプロジェクトに出品。https://yokoiyama.com/

朝比奈 賢 (美術作家)

2F

追悼 オービックビル創設者へ向けて このオービックビルは、今月閉館し、その後取り壊される予定です。私の役割は、城町アートプロジェクトを通し、このビルへの感謝の意を表現することだと考えました。この建物には、どのようなドラマがあったのか。関係者にインタビューを重ね、その創設の背景に迫りました。40年前に5人の地権者が土地を出し合って建設されたと聞き、とても驚きました。リスクある事業だと思いますが、それを取りまとめられたのが二宮呉服店の四代目・二宮秀夫さんだということがわかりました。残念ながら昨年冬に、95歳で逝去され、お会いすることは叶いませんでした。しかし、口述で自分史を残されており、商人としての思想、街づくりへの情熱を伺い知ることができました。このコロナ禍で、葬儀を執り行えなかったとお聞きしています。この部屋の展覧会を二宮秀夫さんの情熱と魂に捧げます。

1974年愛知県名古屋生まれ。神奈川県大磯町在住。1997年バージニア工科大学・交換留学。1999年横浜国立大学建築学科卒。以後、独学で絵画を学ぶ。2005年すどう美術館・海外研修生としてマドリッド留学。初個展。以後、欧米のアートフェアを中心に作品発表。主催プロジェクト、2017年日本・スロベニア現代美術展(日・ス国交樹立25周年事業)2018年アーティスト・イン・レジデンス箱根。2019年日本・ポーランド現代美術展(日・ポ国交樹立100周年事業)他。湘南アートベース代表。https://shonanartbase.wixsite.com/shonan-art-base



HISTORY OF OBIC ふれあいの街角



昭和45年開設当初



昭和55年開設当初



ナイトバザール



10周年記念

オービックビルありがとう！

「地域における文化の発信地」を目指したビルは、文化はもちろん、様々な交差を生み出しました。関わりがあった皆様からコメントをいただきました。

izumi ジュエリーシマノ 藤沢 泉

アクセサリー教室の場所を探していた時に、ビルに出会ったのが23年前。座オフィスー小さなアトリエー大きなアトリエと、お借りしました。朝仕事に来れば隣の部屋の方が遊びに来て、兄弟のようなお付き合いでした。色々な会話があり、アイデアが生まれ、それが今に繋がっています。「現代の長屋」などと表現していましたが、私の人生の中でアトリエ時代の3年間ほど楽しく彩りを感じた日々はありません。ありがとうございます、オービック！

小田原映画祭

小田原映画祭では、オービックビルを会場に、第4回(2010年)から13回(2019年)までの10年間、「街かど上映会」を続けてきました。上映した作品は、洋画の古典的名作や「小田原城のウメ子さん〜ファンが残してくれた宝物〜」など延べ50作品を超えました。2003年以降、映画館が姿を消した中心市街地で、映画上映ができたのは、オービックビルのおかげです。関係者の皆様とご来場いただいたお客様に感謝申し上げます。http://odawara-cinema.net

2代目 事務局長 加藤 憲一

ありがとう、オービック
現代の長屋のようなオービックの内外で、助け合ったり、励まし合ったり、共に悩んだり、知恵を絞ったりしながら、共存共栄を目指して様々なチャレンジを重ねた数年間……。オービックビルの事務局長として、多くのテナントや周辺商店の皆さんと街なかの活性化に取り組んだそれらの日々は、たくさんの大切なものを私に教えてくれた、今思えば掛け替えのないものでした。中心市街地のよき時代を彩ったオービック。ありがとう。そしてお疲れ様！

サトウクリーンング

独自の「オービック商店会」で毎年、北條五代祭にはテナントさん達で協力し、見物の地元の方や観光客の方達に無料で飲み物を振る舞っていました。また、オービックビル夏祭りを開催し各テナントさんが、ご家族やお客様達を招待して楽しい時間を過ごすことが出来ました。異業種のテナントさん達が皆さん仲良くお付き合い出来たことが長く続けられた要因だと思います。本当に長い間ありがとうございます。

芝居屋（劇団）

オービックビルとの思い出
芝居屋とオービックビルとの出会いは9年前、『まちなかバザール』というイベントに参加した時でした。二階のレンタルルームを劇場に、2ステージ、朗読劇の上演をしました。お客様の中にはこのテナントの方々も。楽しい思い出です。長い間銀座通り商店街のシンボルとして、人々に愛されたオービックビルに『お疲れさま』と『ありがとう』を贈ります。

(有) タカハシスタヂオ

3月3日、オービックビル商店会は、昭和・平成・令和と40年にわたってお客様に支えられてきたその時代の幕を下ろします。この間、世の中はあらゆる面で大きく変化しました。写真の世界でも、アナログからデジタルへと変化をしてきました。「ふれあいの街角」のスローガンを忘れずに、顔が見える商店会として地元の商店が力を合わせてきました。小田原の街を元気にしようで開催した「ナイトバザール」や、北條五代祭りでの「ドリンクサービス」等々、小さな商店会らしく楽しく活動して参りました。コロナ禍に立ち向かい、小田原の街が前進む力の一助になりたいという気持ちを持ちながら、オービック商店会の幕を下ろすのは寂しくなりません。最後に、お客様はじめ、オービック商店会にかかわってくださった皆様方に感謝申し上げます。

Hamee 株式会社 代表取締役社長 樋口 敦士

当時は会社も事業も混沌としておりましたが、事務局長の加藤さんはじめ、入居の皆さまにたくさんのことを学ばせていただきました。ビル全体が一つの会社・仲間という雰囲気楽しく仕事をしていました。今でもオービックつながりで年に数回集まったりしています。本当にありがとうございます



平成17年25周年記念



平成22年30周年記念



平成19年シネマカフェ



平成22年ピカピカ大作戦

2021.3.26 fri - 28 sun 10:00-16:00

関連イベント

3.13 sat

アートトーク「これからのプロジェクトについて考える」@ ZOOM

終了



羽鳥 祐子 銚井 喬



平井 宏典



おだわら・コドモ・アート

出張！カラーテープアート「たくさんのお花を咲かせよう！」

オービックビルの床、壁、階段をカラーテープで作ったお花でいっぱいにしてしまおう！

講師：東 麻奈美（油彩画家）

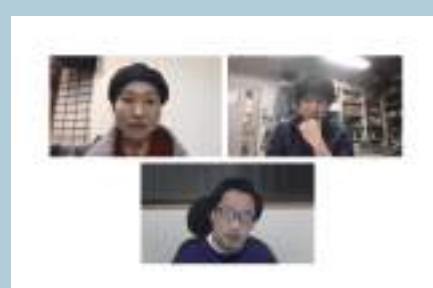
時間：①10：30～11：30

②13：00～14：00

③14：30～15：30

定員：各7組（小学生とその保護者）

料金：無料



開催時の様子



ハルネ小田原で開催時の作品

3.28 sun

オービックバザール

かつて行われていた幻の夜市「ナイトバザール」のような空間が甦ります。

出店：Batamaru（コルク雑貨）、Homely_Design（マクラメ雑貨）sent.（雑貨）、Tipy records inn（活動紹介）、ぶこつそこつ（本）、道草書店（本）



かつての「ナイトバザール」の様子

オービックアーカイブ

オービックビルで活動していた企業とお店を一部紹介！

参加：izumi ジュエリーシマノ、Hamee 株式会社

オンライン路上観察

まちハント

プライベートとして募集した、「城町もよう」、「レトロ建築」、「おだもじ」をキーワードに皆さんが街中でハント（写真撮影）した作品を展示します。



ハレとケ 交差点

おだわら 城町アートプロジェクト



ART

BAZAAR

WORKSHOP

TALK

at 二オービックビル

小田原市栄町2丁目9-46

2021.3.26 fri - 28 sun 10:00 - 16:00

主催：おだわら文化事業実行委員会
（小田原市・一般財団法人小田原市事業協会）
協賛：Hamee 株式会社